

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度技術情報第6号（果樹カメムシ類）について（送付）

8月8日～10日の餌植物（ヒノキ球果）での調査で、チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシが平年より多い傾向です。球果からの離脱の目安となっている球果の口針鞘数も急増しており、果樹園への飛来が懸念されますので注意してください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和4年度技術情報第6号

1 対象病害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

2 対象作物 カンキツ、ナシ等

3 発生状況等

（1）主な餌植物のヒノキ球果での発生状況

ア 8月8日～10日の調査でチャバネアオカメムシとツヤアオカメムシが平年より多い傾向で（表1）、球果の着生量も平年より多く（表2）、新生世代の発生量が多いと推察される。

イ 同日に調査した球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数）も平均11.7本/果（平年5.9本/果）と急増し、調査か所によっては球果からの離脱の目安となっている25本/果に近づきつつあり（表3）、果樹園への飛来が懸念される。

（2）予察灯での誘殺数の推移

8月に入り、一部の予察灯でツヤアオカメムシがやや多く誘殺された（図1）。

4 防除上注意すべき事項

（1）果樹園への飛来は地域により異なり、園内でも偏りがあるので注意深く見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。

また、台風が接近すると球果が落果し、餌不足となった成虫が果樹園へ飛来する場合がありますので注意する。

（2）一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。

なお、合成ピレスロイド系薬剤はミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。

（3）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

5 参考データ

表1 ヒノキ球果での発生虫数（8月8～10日調査）（単位：頭/5枝）

調査地点	チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計
南さつま市	0	0	0	0	8	8
いちき串木野市	2	0	2	0	2	2
阿久根市①	0	0	0	1	2	3
阿久根市②	0	0	0	0	1	1
出水市	4	3	7	0	0	0
さつま町	1	2	3	2	0	2
霧島市	1	3	4	0	0	0
曾於市	0	1	1	0	0	0
本年	1.0	1.1	2.1	0.4	1.6	2.0
平年	0.3	1.1	1.4	0.0	0.1	0.1

注1) 県内8地点で、1地点あたり5枝の結果枝を調査した

2) 平年は、2012～2021年の10年間の平均

表2 ヒノキの球果量（指数）

調査地域	本年	平年
南薩	60	43
北薩	52	46
始良	69	45
大隅	64	40
平均	60	45

注1) 球果量は目視による達観調査（ヒノキ30地点）、評価は7段階（極多, 多, やや多, 中, やや少, 少, 極少）

2) 球果量指数は愛媛県（2018）による。球果量が多いと指数が高く、少ないと指数が低くなる

3) 球果量指数： $((\text{極多地点数} \times 7) + (\text{多地点数} \times 6) + (\text{やや多地点数} \times 5) + (\text{中地点数} \times 4) + (\text{やや少地点数} \times 3) + (\text{少地点数} \times 2) + (\text{極少地点数} \times 1)) / (\text{総地点数} \times 7) \times 100$

4) 平年は、2012～2021年の10年間の平均

表3 ヒノキ球果の口針鞘数（吸汁痕数）の推移（単位：本/果）

調査地点	調査時期		
	7月8～12日	7月22日	8月8～10日
南さつま市	0.1	0.3	7.2
いちき串木野市	1.9	8.9	20.6
阿久根市①	1.8	1.9	12.0
阿久根市②	2.9	7.3	16.9
出水市	0.4	1.3	14.8
さつま町	0.2	2.2	8.8
霧島市	0.2	1.1	1.5
曾於市	0.1	2.8	12.3
本年	0.9	3.2	11.7
平年	0.3	2.5	5.9

注1) 平年は、2012～2021年の10年間の平均

2) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は、口針鞘数25本/果

チャバネアオカメムシ

ツヤアオカメムシ

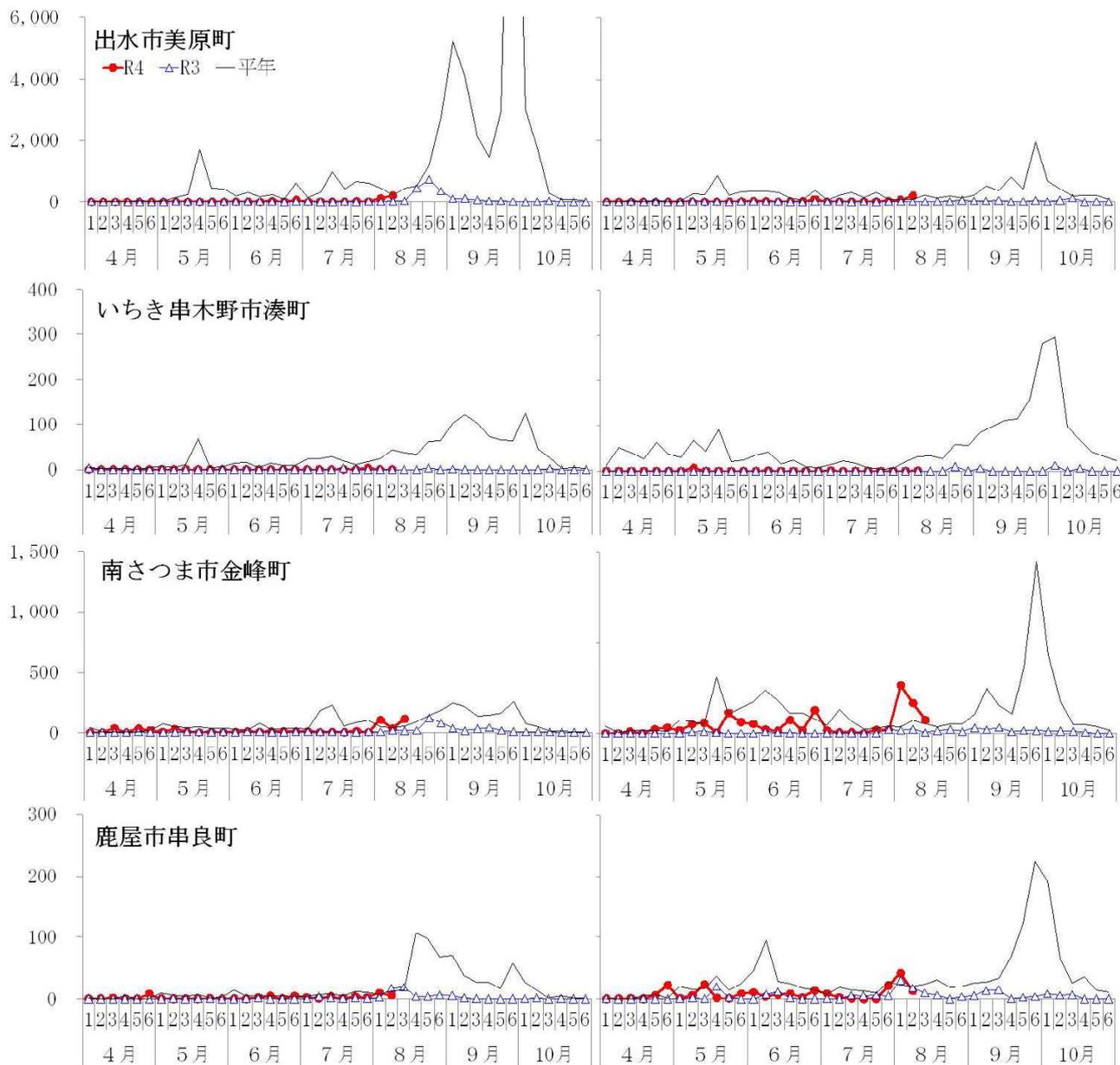


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移